

JF生活日本語Can-do / JF Can-do for Life in Japanの開発

菊岡 由夏・高 偉建・伊藤 由希子(日本語国際センター専任講師)

1. JF生活日本語Can-doとは

■日本語を母語としない外国人が、日本での生活場面で求められる日本語による基礎的なコミュニケーションを「～できる」という形で記述し、例示したもの

■特定技能ビザでの来日を希望する人のための活用も想定

■全381項目を日本語国際センターのHP上で公開 → → →
(https://www.jpfi.go.jp/j/urawa/j_rsorcs/seikatsu.html)



2. JF生活日本語Can-doの概要

■JF日本語教育スタンダード(以下、JFS)の理念や考え方に基づいて開発

■JF Can-doそのまま(140Can-do)や、その一部を改訂したもの(53Can-do)を含む

13	出かける	交通機関を利用する	JF	337	A1	タクシーの運転手に、行き先までどのくらいかかるか、短い簡単な言葉でたずね、ゆっくりはっきりと答えられる。答えを記憶することができる。	やりとり(口頭)
14	出かける	交通機関を利用する	(JF)	339	A1	タクシーに乗ったり、友人に車で送ってもらった時などに、「ここはいいです、降りたい場所を知りたい場所を尋ねることができる。」	やりとり(口頭)
15	出かける	交通機関を利用する			A2	電車の乗降方法など、目覚ましやイヤホンで聴いた録音を見て、電車の時刻や乗り換え駅、乗車券、切符、乗車時間など、必要な情報を得ることができる。	書き(口頭)

JFCan-doには整理番号を表示
JF Can-doの一部改訂は「(JF)」と表示

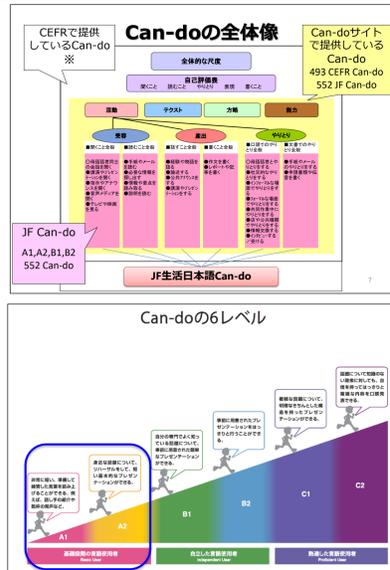
■レベルはA1(158Can-do)とA2(223Can-do)

■言語活動は「受容(聞く・読む)」「産出(話す・書く)」「やりとり(口頭・文書)」に分類

■場面をイメージしやすいように3つ(出かける・暮らす・働く)の大カテゴリーにCan-doを分類、さらに、小カテゴリーに下位分類

JF生活日本語 Can-do (381)		
出かける (128)	暮らす (179)	働く (74)
公共空間でのコミュニケーション、やりとりの相手は、店員や施設の職員など公共の役割を担う人々。	さまざまな場所での私的なコミュニケーション、やりとりの相手は、やりとりの相手は、友人や知り合いなど(外出先でのやりとりでも友人との私的なやりとりはこらに含む)。	職場でのコミュニケーション、やりとりの相手は、職場の上司や同僚など(同僚との休憩時間や忘年会、交流会に関するやりとりも含む)。
交通機関を利用する 街を歩く 飲食店を利用する 買い物をする 郵便局/銀行を利用する 公共機関を利用する 観光施設を利用する 地域の行事/活動に参加する 美容院を利用する クリーニング店を利用する 医療機関を利用する ★緊急時に備える/対応する	生活の中で聞いたり話したりする 生活の中で読んだり書いたりする テレビを見る/ラジオを聞く 会話を円滑に進める ★緊急時に備える/対応する	職場で聞いたり話したりする 職場で読んだり書いたりする ★緊急時に備える/対応する

※「★緊急時に備える/対応する」は全領域に配置



3. JF生活日本語Can-doの特徴

①日本での生活や新しい人間関係を構築するためのCan-do

■ごみの捨て方や分類について、近所の人に、短い簡単な言葉で質問したり、質問に答えたりすることができる。
(JF生活235_暮らす_生活の中で聞いたり話したりする_A2)

■新しいところに引っ越ししたときなどに、近所の人に、「これからお世話になります」「よろしくお願ひします」など、基本的な挨拶をすることができる。
(JF生活163_暮らす_生活の中で聞いたり話したりする_A1)

②職場でのCan-do(職種に依存しない最低限の言語活動を選択)

■担当の作業が終わったとき、上司に、「終わりました」などの短い簡単な言葉で伝えることができる。
(JF生活319_働く_職場で聞いたり話したりする_A1)

■職場の休憩時間などに、飲み物や食べ物などを勧められたとき、短い簡単な言葉でコメントを加えて応じたり、断ったりすることができる。
(JF生活361_働く_職場で聞いたり話したりする_A2)

③緊急時の対策や対応に関するCan-do

※条件を加える、リソースを活用する等により、A1、A2でも達成可能な言語活動になるように工夫

■ゆっくりとはっきりと話されれば、災害時の緊急放送を聞いて、避難が必要かどうか、どこに避難するかを理解することができる。
(JF生活305_暮らす_緊急時に備える/対応する_A2)

■駅のホームや電車の中などで、事故や遅延などのアナウンスが流れたとき、駅員やまわりの人に何が合ったか質問し、短い簡単な言葉で話されれば、答えを理解することができる。
(JF生活20_出かける_交通機関を利用する_A2)

【参考】

発音をはっきりしていれば、駅のホームや電車の中などで、事故や災害など非常時のアナウンスを聞いて、理解することができる。(JF098_指示やアナウンスを聞く_B1)

④JFSでは「方略」とされる言語行動を活動Can-do化

■相手の言っていることがわからないとき、「わかりません」「もう一度お願いします」などと、わからなかったことを伝えることができる。
(JF生活299_暮らす_会話を円滑に進める_A1)

【参考】

理解できないと言うことができる。(CEFR365_方略_説明を求める_A2.1)
理解できないことを言葉、イントネーション、身振りなどで示すことができる。(CEFR補遺版_方略_説明を求める_A1)
わからないことを簡単に表現できる。(CEFR補遺版_方略_説明を求める_A1)

4. JF生活日本語Can-doの開発プロセス

JF生活日本語Can-doの開発プロセス

1. 言語行動の選び出し
2. Can-do記述の作成
3. Can-do記述の修正
4. 検証①専門家による検討と修正
5. 検証②質的検証と修正
6. web公開(2019.8末)
7. 英訳版公開(予定)(2019.10末)

■言語行動の選び出し

下記【資料1】を軸に【資料2】【資料3】を整理し、三つの資料に共通するものを必要性が高いと判断

■Can-do記述の作成

JFSの「活動Can-doの構造」に沿って記述

【活動Can-doの構造】

Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

CEFRの共通参照レベル(全体的な尺度、自己評価表)、CEFRとJFSのCan-doと照らし合わせてレベルを設定

■検証

検証①

協力者：日本語国際センター専任講師6名→関西国際センター専門員
方法：カテゴリーごとにまとめたCan-doを全体的に評価

1Can-doに2名の評価者に依頼。評価者のコメントをもとに、わかりにくい、真正性に疑問があるCan-do等を修正、削除

検証②

協力者：日本語国際センター専任講師11名

方法：カテゴリーごとにまとめたCan-doを、「レベルの妥当性」「カテゴリーの適切性」「記述のわかりやすさ」の観点から「○」「×」で評価。1Can-doにつき3名の評価者に依頼
全員○のCan-doは修正なし、それ以外のは検討し修正

■今後の課題

(Can-do開発に)利用可能な方法は三つのグループに分けられる：直感的方法、質的内容的方法、計量的方法である。(中略)最善の方法はこの三つの評価過程を結合し、相互補完的に、また積み重ねていくことである。(Council of Europe, 2004;219)

実際に日本で生活する外国人(特定技能ビザで来日した人等)を対象とした検証をはじめ、さらなる検証を重ねることが必要

主な参考文献

- 国際交流基金(2017)「JF日本語教育スタンダード【新版】利用者ガイドブック」国際交流基金
- Council of Europe(2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂/大橋理枝(訳・編)朝日出版社(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. 3rd printing 2002. Cambridge University Press.)
- Council of Europe(2018) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Companion Volume with New Descriptors. <http://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989> (2019.9.22最終アクセス)

【資料1】国立国語研究所(2009)「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準の開発-中間報告書-」国立国語研究所

【資料2】文化審議会国語分科会(2010)「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」文化庁

【資料3】AJALT「リソース型生活日本語」<https://www.ajalt.org/resource/>